

総合単元名	約束やきまりを守って		1月～2月	全6時間
めざす子ども	約束やきまりを守り、みんなで使う物や場所を大切にできる子			中心項目 4—(1)
ねらい	約束やきまりを守り、みんなで使う物や場所を大切にしようとする態度を育てる。			関連項目 1—(3)
<p>単元設定の理由</p> <p>児童は、きまりを守らないといけないという意識はもっている。しかし、まだ自己中心性が強く、自分勝手な行動をとることが多い。また、学級のボールを運動場に置いたまま教室に戻ったり、トイレのスリッパをばらばらにしたままであったり、みんなで使う物を無責任に扱う姿も見られる。そこで、約束やきまりを守ったり、身の回りのみんなで使うものに意識を向けて具体的な物や場所を大切にしようとする態度を育てたいと考え、本単元を設定した。</p>				
時期	教科・特別活動	道徳の時間	常時活動 家庭との連携	子どもの意識の深まり
1月	<p>② 体育科 1月(1時間) 「ゲーム鬼遊び」 順番やきまりを守って、みんなで楽しむことができる。</p> <p>④ 生活科 2月(2時間) 「わたしとさんぽ」 町探検を行いながら、公園を散歩しながら、みんなで使う場所を大切にしようとする気持ちを持つことができる。</p> <p>⑥ 体育科 2月(1時間) 「ボールゲーム」 みんなで楽しめるようにきまりを守り、自分たちが使った物は責任を持って片付けることができる。</p>	<p>① <善悪の判断と勇気> 1—(3) 1月(1時間) 「ごみひろい」 主題名：自分のしたこと お菓子の袋を捨てたことを思い出したぼくがどんなことを考えたかを通して、行ってよいこととしてはいけないことに気付きよいと思うことは進んで行おうとする心情を育てる。</p> <p>③ <公德心> 4—(1) 1月(1時間) 「きいろいベンチ」(本時) 主題名：みんなが使う物 「はっ」として顔を見合わせた時のたかしの気持ちを考えることを通して、公共の場で自分勝手な行動をすると他の人に迷惑をかけてしまうことに気付き、みんなが使う物を大切にしようとする心構えを育てる。</p> <p>⑤ <きまりを守ってつかう> 4—(1) 2月(1時間) 「みんなのボール」 主題名：きまりを守って使う しげるの言葉で、みんながボールを探しに飛び出したときの気持ちを考えることを通して、無責任な行動でみんなが困ることに気付き、みんなであつかうものを大切に扱える心構えを育てる。</p>	<p>(◆下校指導) 交通ルールを守り、一列に並んで登下校することができる。</p> <p>(◆業間遊び) 遊びのきまりを守って楽しんで遊ぶことができる。</p> <p>(■たてわり掃除) 1年間使ったみんなの学校を協力してきれいにしていこう。</p>	<p>◆ 広がって歩くと自動車 came 時、危ないな。一列に並んで歩こう。</p> <p>① おばあさんはすごいな。外にゴミをしてはいけないな。ぼくも落ちているゴミを拾ってみようかな。</p> <p>◆ みんなで遊ぶのは楽しいな。きまりを守って遊ぶと楽しいな。</p> <p>② みんなで鬼ごっこをすると楽しいな。みんながルール守ったら楽しくできるな。</p> <p>③ みんなが使う公園だから、汚したらみんなに迷惑がかかる。今度からは、きれいに使おう。</p> <p>④ いつも遊んでいる公園だから、きれいだったらいいな。きれいな公園だと気持ちがいいな。</p> <p>⑤ 学校の物は自分たちだけのものではない。壊れたりなくなったりしたら大変だ。みんなで使うものは、責任をもって大切に使おう。</p> <p>⑥ みんなが楽しくできるようなルールを守ってゲームをしよう。</p> <p>■ 1年間使った学校をみんなできれいにしよう。 きれいにして、次の学年に引き継ごう。</p>
2月				
約束やきまりを守り、みんなで使う物や場所を大切にできる子				

「道徳の時間」学習指導案

指導者 雛川 朋子

1 日時 2015年(平成27年度)1月30日(金) 第5校時

2 学年 野々浜小学校 第1学年1組 男子9名 女子11名 計20名

3 主題名 みんなが使う物
中心項目 4－(1) 〈公德心・規則尊重〉
関連項目 1－(3) 〈善悪の判断と勇気〉

4 ねらい 「はっ」として顔を見合わせた時のたかしの気持ちを考えることを通して、公共の場で自分勝手な行動をすると他の人に迷惑をかけてしまうことに気付き、みんなが使う物を大切にしようとする心情を育てる。

5 資料名 きいろいベンチ(出典:「1年生の道徳」 文溪堂)

6 主題設定の理由

○ 公共物を大切に、人に迷惑をかけないように心掛けるということは、社会の一員として守るべき大きな公德である。お互いに相手の立場を思いやり、公共心・公德心を守られたら明るく楽しい社会生活が成り立つと考える。しかし、低学年においては、自他の区別がつきにくく、自分本位に行動する傾向がある。

そこで、みんなで使う物やみんなが使う場所にはどんなものがあるか分からせる。そして、どのように使えばみんなが楽しく活用できるかを考えさせ、人に迷惑をかけないようにしみんなで使う物は大切にしようという気持ちを育てたいと考え、本主題を設定した。

○ 本学級の児童は、きまりや約束があることは理解し、みんなで確認したきまりや約束を守ろうとする姿も見られる。事前アンケートでも「みんなの約束やきまりを守ることは大切だと思う」に100%、という肯定的回答があった。しかし、理由として「きまりだから」「守らないといけないから」など、何のためにきまりがあるのかということを考えている児童は少ないということが分かった。普段の生活でも、廊下を走っていたりチャイムが鳴ってもすぐに座れなかったりする児童がいるように行動が伴っていないこともある。

また、「みんなで使う物を大事にすることは大切だと思っている」という事前アンケートでも肯定的回答が95%となった。しかし、学級のボールを運動場において帰っていたり、トイレのスリッパがバラバラになっても気付かなかったり、学級図書の本を返すときに横にして置いたりすることがある。このことから、公共物を大切にしないといけないということは分かっているが、自分の行動に気付いていなかったり、自分本位な行動をしてしまったりするということが考えられる。

○ 本資料は、大きく3つの場面で構成されている。

(1) たかし君たちが雨上がりの公園のベンチに泥のついた靴のまま上がり、紙飛行機を飛ばしてしまう場面。

(2) 女の子がベンチに座ってしまい、スカートを汚してしまう場面。

(3) その様子をたかし君たちが見て、はっとする場面。

指導にあたって、導入では、みんなで使う物について想起させることで資料への方向付けをする。展開前段では、場面絵を提示し2人の表情に着目させ、ベンチの上から飛行機を飛ばすことに夢中になり周りのことを気にせず楽しんでいるときのたかしくんの気持ちに共感させる。中心発問では、女の子とおばあさんの様子を見たたかし君の気持ちをワークシートに書かせる。価値に迫る発問では、「ベンチに上がってはいけないというきまりはないよ。」と問いかけることで、公共物や公共の場では、きまりはなくても自分本位ではなく周りの人のことを考

えて行動しないといけないということに気付かせたい。

7 準備物 場面絵 ワークシート

8 学習過程

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	支援 (○)・評価 (★)・改善点 (◎)
導 入	1 みんなで使う物について発表する。	○みんなで使う物にはどんな物がありますか。 ・クラスのボール ・図書室の本 ・トイレ ・運動場 ・体育館	○身のまわりには、みんなで使う物がたくさんあることを意識させるようにする。
展 開	2 資料「きいろいベンチ」の前段を聞き、たかしの気持ちを考える。 3 資料後段を聞き、「はっ」とした時のたかしの気持ちを考える。	○ベンチにのって何度も何度も夢中で紙飛行機を飛ばしているとき、たかしはどんなこと気持ちだったでしょう。 ・楽しいなあ。 ・高いところからだと、よく飛ぶな。 ・もっと遠くに飛ばしたいな。 ◎「はっ」として顔を見合わせた時、たかしはどんなことを考えていたでしょう。 〈A：自分本位〉 ・知らんぷりをしよう。 ・どうしよう。 怒られるかもしれない。 〈B：他者を意識して〉 ・ぼくたちのせいで女の子のスカートを汚してしまった。ごめんなさい。 ・公園のベンチは他の人も使うんだった。 ・他の人のことを考えていなかった。今度から気をつけよう。 【価値に迫る発問】 ●ベンチの上から飛ばしてはいけないというきまりはないよ。だから、上がってもよいのではないかな。 ・きまりはなくても他の人が困ることをしてはいけない。 ・座った時に汚れていたら、いやな気持ちになる。 ・他の人のことも考えて大切にしないといけない。 ・ベンチがきれいだったらみんながよい気持ちになる。	○場面絵の 2 人の表情から、まわりの人の迷惑も考えず紙飛行機を遠くへ飛ばすことに夢中になっているたかしの気持ちに共感させる。 ◎ワークシートに書かせることにより、たかしの気持ちをしっかり考えさせる。 ○座席表で見取り、意図的指名に生かす。 ○自分本位の行動が、自分の想像を超えて、他者に迷惑をかけてしまうことがあることに気付かせる。
	4 自分の生活について振り返る。	○みんなで使う物や使う場所を大切に使うことはありますか。 ・トイレのスリッパを揃えた。次の人がすぐにはけると思ったから。 ・学級図書が横に向いていたから、きちんと直した。破れたら次の人が読むときに困るから。	★みんなで使う物を大切にしようとする意欲を高めることができたか。 ○児童が思いつかない場合は写真などを準備しておき、提示することで気付かせる。

<p>5 教師の説話を聞く。</p> <p>6 自分の振り返りを交流する。</p>		<p>○ワークシートを活用し、本時の道徳的価値について自分の考えをまとめさせる。</p>
---	--	--

9 板書計画

・どうしよう。おこられるかも。

・ぼくたちのせいで女の子のスカートをよごしてしまった。

・ベンチはほかの人もつかうんだっただ。

・ほかの人のことをかんがえてなかった。

**みんながつかうものを
たいせつに
みんながいきもち**



みんなてつかうもの

- ・学校のボール
- ・としょじつの本
- ・トイレ

てつや

たかし

いろいろなベンチ

女の子

おばあさん

・たのしいな。

・たかいところからだ
とよくとぶな。

・もっととばしたい。

顔を見合わせている
たかしとてつやの絵

10 ワークシート

○きょうの学しゅうをして、かんがえたことをかきましょう。

いろいろなベンチ

○「はっ」として、かおを見あわせたとき、たかしくんはどんなことをかんがえていたでしょう。

顔を見合わせている
たかしとてつやの絵